

老健施設・病院 グッドマン換気口活用の御提案書

現在、建築業界では、アベノミクス効果で円安基調となり資材価格の高騰、復興工事やオリンピック需要で資材や職人不足により建築コストUPが大問題になっております。

いかに品質を保ちながらコストを抑える事を設計事務所、ビルダーでは日々研究している状況です。更に電力高騰の時代ではランニングコストの削減も求められており、当社では、高气密建物で動力無しで四季を通じて快適な自然風を得る『グッドマン換気口』の活用で地球環境に優しい換気システムの普及に努め効果を得ております。

大幅な三大コストダウンの提案

ハイブリッド換気(常時自然換気+機械換気の併用)の特徴

イニシャルコスト ～ ダクトレスのグッドマン換気口活用の第三種換気は省資源な換気システム。(設備費が安価で工事費が大きくコストダウン)

工期短縮 ～ 配管工事、電気工事の削減により、工期短縮が可能となった。(人件費削減も含む)

ランニングコスト ～ 常時自然換気活用し機械換気併用は、最小の換気エネルギー消費で冷暖房時の換気エネルギーロスは少なく、メンテナンスは容易で停電時、長期不在時、空き室には一定の換気量を保ち、人と建物に優しく電力制御を実現する省エネな換気システム。

週刊 高齢者住宅新聞

2014年(平成26年)

Elderly Press Newspaper
エルダリープレス ニュースペーパー

(株)高齢者住宅新聞社 〒11
TEL.03-3543-6852(編集部)
発行人 西岡一紀 年間購読

グッドマン

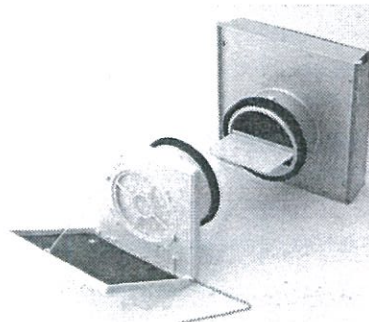
自然換気システム最大限活用 コストダウンを実現

注目企業
pick up



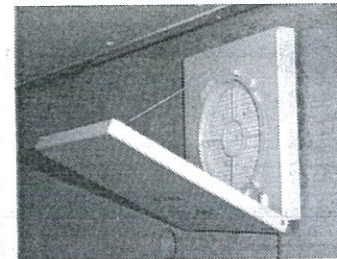
齋藤武夫社長

グッドマン(札幌市)が開発した自然換気システム「グッドマン換気口」の導入が北海道内の医療機関や介護老人保健施設、グループホームなどで進んでいる。同商品で10年以上前に開発して以降、北海道立北方建築総合研究所との共同研究で改良を重ねてきた。今後は全国の医療機関や高齢者住宅での認知度向上に努めていく方針という。



▲自然給排気を行う「グッドマン換気口」

グッドマン換気口は高気密住宅において温度差換気作用と風力換気作用の自然換気システムを最大限活用した自然給排気を実現する。温かい空気は上部に、冷たい空気は下部に滞留する原理を利用するため、電力を一切必要としない。グッドマン換気口自体には配管も不要なため工期も短縮でき、最低限の機械換気と併用することでインシヤルコスト・ランニングコストの大幅な削減を図れる。コストパフォーマンスの良さだけでなく、無音である点、24時間の通風で匂いや結露を防止できる点なども導入事業者から好評だ。



▲多くの施設で導入されている

換気量はグッドマン換気口の室内側に設けられたダンパー(開口部蓋)の角度を変えられることで調節が可能。温かいシーズンはダンパーを広く開口し、寒いシーズンには開口を狭くすることで調節が可能。温かいシーズンは経済産業省・北海道経済産業局の省エネルギー大賞(2012年度)などにも受賞し、昨年は第10回

して使用する。換気量を細かに調節できることに加え、ダンパー上部で外気と内気の温度を中和するため、冷暖房を使用するシーズンでも外気の影響を受けにくいのは特長だ。

2002年の発明協会会長奨励賞を始めとし、経済産業省・北海道経済産業局の省エネルギー大賞(2012年度)などにも受賞し、昨年は第10回エコプロダクツ大賞において審査委員長特別賞(奨励賞)にも選ばれている。

(札幌市)となっており、同社のグループ会社が運営する高齢者住宅でも導入されている。

グッドマンの齋藤武夫社長は「自然エネルギーを最大限活用するグッドマン換気口では機械換気を補助的に利用する程度で済ませることができる。耐久性が高く、設置も容易でありながらバランスの良い換気量を確保できるので、より多くの人に知ってもらいたい」とし、

今後は特に病院や高齢者住宅での採用・導入を増やしていきたいと考えた。